

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2020年6月新刊のご案内

哲学書で担当者さま

# 漂泊のアーレント 戦場のヨナス

## ふたりの二〇世紀 ふたつの旅路

戸谷洋志 (大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 特任助教)・

百木漠 (立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員)[著]

本体予価 2,000 円 四六判並製 / 372 頁 ISBN 978-4-7664-2678-6 C0010

👉 ココに注目!

- ・「テクノロジー的全体主義」と対峙するために。
- ・「人間がこの世界に新しい存在として誕生する」ために。

アーレントとヨナス、20世紀の激動が産み落とした二人の宿命は、やがて人間賛歌の思想「出生」として結実する。私たちが時代の枠組みの中でなお思考し、未来への責任を果たしていくための手引き。

📖 類書 戸谷洋志『ハンス・ヨナスを読む』(堀之内出版)、百木漠『アーレントのマルクス』(人文書院)

### 営業部からのおすすめポイント

本書は、日本で初めて、アーレントとヨナスの思想史的連関を主題にした本です。アーレントに関する記述とエピローグは百木氏が、ヨナスに関する記述とプロローグは戸谷氏が担当。2人が歩んだ激動の時代を、2人の著者が丁寧に辿り、描き上げます。世界の問題に関心を持ったり、身近な人と対話をしたり、そんな「はじまり」を誘発させる力を秘めた本書に、ぜひご期待ください! (中島)

👉 詳細目次、カバー用の装画は裏面に掲載! ぜひご確認ください!

👉 ご注文は FAX で! 03 - 3451 - 3124 📞

番線	ご注文部数	発行所: 慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
新刊委託		戸谷洋志・百木漠 著 漂泊のアーレント 戦場のヨナス —ふたりの二〇世紀 ふたつの旅路 ISBN978-4-7664-2678-6 C0010	2,000 円	★★★ ★★★

★1つで「500部」を表します

## 〈詳細目次〉

### プロローグ 漂泊のアーレント 戦場のヨナス

アーレントとヨナス／漂泊のアーレント、戦場のヨナス／二人の交錯点——「出生」／本書の構成

### 第1章 友情と恋愛のあいだ——誕生から出会いまで 1903～1933

アーレント：0～27歳

幼年期と少女時代／ユダヤ人としての自覚／ヨナスとの出会い／博士論文「アウグスティヌスの愛の概念」／ナチ前夜の結婚

ヨナス：0～30歳

ヨナスの出生／読書の世界へ／シオニズムへの夢／大学時代——フライブルク・ベルリン・ヴォルフンビュッテル／アーレントとの出会い／古代グノーシス主義の研究

### 第2章 漂泊と戦場——ナチズムとの対峙 1933～1945

アーレント：27～39歳

政治的目覚め／パリのアーレント／伝記『ラーエル・ファルンハーゲン』と「自覚的パリア」／ブリュッハーとの出会いと結婚、そしてギュルス収容所／新天地アメリカへ

ヨナス：30～42歳

ドイツからの亡命／ハイデガーへの失望／エルサレムの日々／「われわれはこの戦争に参加する」／ローレとの結婚／ユダヤ旅団への参加／戦場の思索

### 第3章 新たな始まり——それぞれの再出発 1945～1961

アーレント：39～55歳

戦争の終わり、そして二人の恩師との再会／イスラエル建国への絶望／全体主義とは何であったのか／新たな「始まり」への希望／『人間の条件』における「始まり／出生」論

ヨナス：42～58歳

母の死／「人間を信じることが必要だった」／パレスチナからカナダへ／「私には小さな子どもがいる」／ニューヨークへ、そしてアーレントとの再会

### 第4章 亀裂——アイヒマン論争 1961～1963

アーレント：55～58歳

「悪の凡庸さ」についての考察／アイヒマン論争／ショーレムの怒り／語り口の問題／アーレントからの応答／あえて裁くこと

ヨナス：58～60歳

アイヒマン裁判への態度／アーレントへの手紙／「誇りをもって身につけよ、この黄色い星を！」／決裂と和解

### 第5章 精神の生活、生命の哲学——方向転換の季節 1963～1975

アーレント：58～69歳

〈活動的生活〉から〈精神的生活〉へ／一者のなかの二者／晩年のアーレント

ヨナス：60歳～72歳

「死の存在論」／ハイデガーとニヒリズム／哲学的生命論の戦略／生命における死と実存／人間の自由と想像力／不死性の神話／ヨナスの生命とアーレントの生命

### 第6章 最後の対話——テクノロジーへの問い 1975～1993

アーレント：死去後

「究極的なもの」をめぐる／超越性と内在性／科学技術をめぐる対話／見ることと聞くこと

ヨナス：72～90歳

世界はずっと冷たくなってしまった／晩年のアーレントからの影響／科学技術文明への問い／「未来への責任」という難問／『責任という原理』／責任と「出生」／神があなたと一緒に作ろうとした本／アウシュヴィッツ以降の神／哲学であり、同時に、ユダヤ人である

### 補論 歴史をめぐるアーレントとヨナスの対話

コンスタンツ大学 哲学文書館／1969年のアーレントとヨナス／論文「流転と静止——歴史の理解可能性の根拠について」／アーレントからの批評／『精神の生活』への影響と「魂の交流」

### 第7章 考察——アーレントとヨナスの比較 20xx

アーレントとヨナス、差異と共鳴——神への眼差しから（百木漠）

アーレントとヨナスの差異／差異の理由／アーレント出生論の神学的基礎／ヨナス倫理の神学的基礎

自然・対話・想像力——アーレントとヨナスにおけるテクノロジーの問題（戸谷洋志）

着想へ至る経緯／終わりなき進歩と自然性／テクノロジーとしての科学／

アーレントにおけるテクノロジーの脅威——公共性の空洞化／ヨナスにおけるテクノロジーの脅威——倫理の空洞化／そして全体主義へ／抵抗としての対話／抵抗としての想像力／ここにいる者とともに、ここにいない者のために

### エピローグ テクノロジー的全体主義に抗して

未来に向けて／現代＝近未来／テクノロジー的全体主義の出現



▶カバー用装画

© 太田陽博